

深南部・黒法師岳 山行報告

(山城) 南アルプス深南部

(コース) 寸又峡温泉－沢口山－山犬段－房小山－黒法師岳－前黒法師岳－寸又峡温泉

(日時) 11月3日(金・祝)～5日(日) (前夜発) 行動28.5時間、歩行44km、累積標高4200m

(参加者) CL吉川 佐藤(記録)



9月の朝日連峰・三面尾根山行の際に、CLから深南部の魅力を教えていただき実現した山行である。南アルプスは北部しか行ったことがなく、マイクロ孢子？黒薔薇？山犬のダン(犬の名前？)(注：前黒法師岳、黒バラ平、山犬段)まったく聞きなれない言葉ばかりで、地図上に破線すらないルートを含むディープ&ロングな山行だが、自分も秘境、辺境好きなので喜んで同行させていただいた。

11月2日 前夜発

千葉を前夜20時に出発し、新東名道の静岡スマートICで降り、大井川に沿って国道362号線を北上する。都内、大井JCTからのトンネルが異常に渋滞し1時間以上遅れていたため、道の駅「奥大井音戯の郷」に着いたのは2時過ぎになってしまった。軽く宴会して仮眠した。



11月3日 快晴

(山行タイム) 寸又峡温泉・沢口山登山口 7:15-10:00 沢口山-12:20 天水-14:40 八丁段-15:10 山犬段山小屋(泊) 行動8時間

朝5時半頃起床、外は快晴、ヤル気ゲージが満タンになる。手早く支度をして車を30分ほど走らせ、細い道をぐねぐねと登り、終着の寸又峡温泉に到着した。カモシカ像がある駐車場から少し坂を上った駐車場に車を停める(下は観光客の出入りが激しいので)。「むかしのパチンコ」が目印である。

沢口山登山口はカモシカ像の左手の道を進んで5分ほど。落ち葉の上をサクサクと、明るい樹林帯を700mほど登ると沢口山に到着する。山頂北側は眺望が良くベンチもありお手軽なハイキングコースだ。手前に寸又三山のひとつである朝日岳が見え、特徴的な大きなガレが痛々しい。他の三山は、この沢口山と最終日に通る前黒法師岳である。奥には大無限山、聖岳、光岳などそうそうたる面々。秋晴れ最高。右端には富士山も見えた。素晴らしい景色と紅葉を愛で、撮影会をしながらゆっくり進む。特に天水からの眺めは、この先通るルートのひとつが見渡せて素晴らしかった。ホーキ薙の復旧治山工事箇所を抜けて八丁段に立ち、本日の宿泊地、山犬段山小屋に向かった。

小屋到着後、林道を10分ほど下って林道脇の水場(結構急斜面、水量多い)で合わせて7Lほど取水した。小屋には6人パーティが2組、その他自分たちも入れて20人ほどでかなり盛況だった。CLの野菜たっぷり豚バラの段トン汁をメインに美味しい夕食に舌鼓を打った。2時間ほど食べたり飲んだり、小屋内は賑やかでさながら居酒屋だったが、みなさん20時までには明日に備えて静かに就寝した。



寸又峡 カモシカの像から出発



明るい樹林帯を登る



大ミズナラ でかい!



沢口山山頂からの展望 光岳、聖岳、大無限山など南ア南部のヒーロー大集合



天水から2～3日目の行程がよく見える



深南部とは

南アルプスは南北に延びる長大な尾根によって構成され、3000mを超える山は13座に及び、北アルプスとともに日本の屋根を形成している。南アルプスの中ほどに、静岡県と長野県を結ぶ三伏峠がある。一般的にはこの峠を境にして塩見岳以北を南アルプス北部、赤石岳から光岳までの山を南部と呼んでいる。

しかし、光岳以南には南アルプスが好きな人たちにはたまらない魅力をもつ中ノ尾根山、不動岳、黒法師岳といった山々が主脈や枝尾根上に一段と高く頭を出している。光岳以南についてはさらに深い山ということもあり、ヤブ山志向の登山者たちには、アメリカの「ディープサウス」にあやかって「深南部」と呼ばれ、ひそかに愛されているのである。

《出典・引用 ヤマケイオンライン》

http://www.yamakei-online.com/yamanavi/yama_area.php?id=120



ホーキ薙 崩壊面の大工事中、現代に戻される



八丁段に登ったあとは山犬段小屋まであと少し

11月4日 曇り→小雨・終始強風

(山行タイム) 前泊地 5:30-6:10 蕎麦粒山-9:10 千石平-12:40 房子山-15:20 バラ谷の頭- (取水)
-17:00 幕営地 (テン泊) 行動 11.5 時間

朝 4 時頃起床、予報どおり強風。今日の行動は長いので、日の出前にヘッドランプを点けて出発した。250m ほど登って蕎麦粒山に到着。五樽沢のコルから林道への下りは林道崩壊のため通行禁止だった。P1602 の三合山から先は極端に道が薄くなり、露岩や左右切れ落ちたリッジなど、アスレチック要素が多くなった。水場のある千石沢のコルを越えて 100m 以上登ると千石平 (ちょい先に鋸山) に到着。名前のとおりかなり広くて平らで、水を運ぶのが苦でなければテン場としても快適だろう。

鋸山を越えるといよいよ本日の核心、地図には破線表示も無い。笹原を進んで行く先に見える黒法師岳にはガスがかかり嫌な予感。大きなものはないが小さなアップダウンが繰り返され、笹原では常に西からの強風を受けて体が振られるときがあり体力が消耗する。加えて雨がポツポツと振り始め、房小山に到着する頃には小雨に変わった。こういうときは気分的にだいたい惨めな感じがする。ルートかな?と思うと鹿道ばかりで基本的にルートはなく、ガスがかかっているのもで迷いやすい。CL は常にコンパスと地図を片手に丹念に進路をとる。自分はたまに iPhone の GPS アプリで現在地を確認してフォローした。

黙々と笹原の中を歩き続け、本邦最南端の 2000m 地点を越え、バラ谷の頭に到着した。ここも水さえあればかなりいい場所。本日の幕営地、黒バラ平に向けて下降するがかなりの急坂で、濡れた笹葉のせいでやたらと滑る。尻もちを何回もついてコルに到着し、5分ほど下の水場まで往復して取水した (この水量も十分)。強風を避けるため、本来の幕営ポイントより手前の稜線上のくぼ地にテントを設営した。

すでに日没後、17 時近くで薄暗い。小雨とは言え、ずっと濡れた笹原を歩いたおかげで、ぐっしょり

濡れた冷たい靴とソックスを脱ぎ、一通り着替えを済ますとやっと体が温まってきて安堵感に包まれる。笹原の上に設営しているので水平を取れず、火を使うときは絶えずどちらかが鍋を持つ必要あり。夕食メニューは頑張ったご褒美、豪華にウナギの蒲焼です、しかもご当地、静岡県産。今夜もたくさん食べてぐっすり寝た。



緩い笹原とアップダウンの繰り返し



千石平、地図では先の支尾根も広く気になる



鋸山とっただー



一面のガス、強風、雨もポツポツと



房小山 小雨に変わる



房小山からは鹿道ばかりでルート不明瞭



日本最南端の標高 2,000m 地点



バラ谷の頭に到着



黒バラ平への急坂が滑る！一瞬晴れ間も



夜は晴れておぼろ月（春じゃないけど）

11月5日 晴れ→曇り

(山行タイム) 前泊地 6:15-7:20 黒法師岳-10:00 へりポート-11:55 前黒法師岳-14:40 前黒法師岳登山口-15:30 寸又峡温泉 P 行動 9 時間

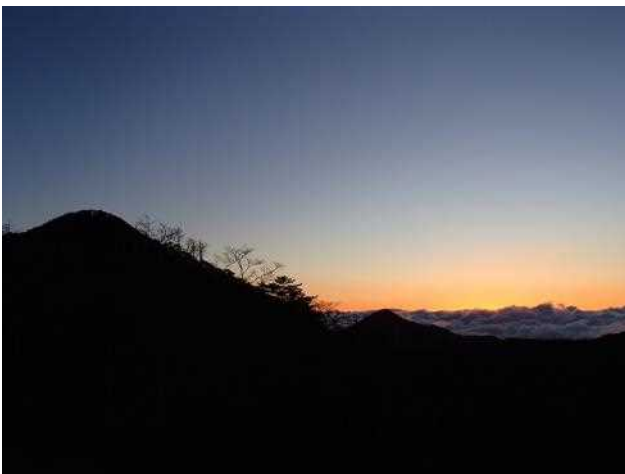
最終日、目が覚めてテントから外を見ると快晴で★が煌めく。やりましたね、最高です！放射冷却のせいもあって気温は氷点下、テントが凍り撤収に時間がかかる。ポールも凍っていて外れないので、擦って温めて外した。靴も凍っているのに、バーナーの火であぶって溶かした。

朝焼けの中、まずは眼前の黒法師岳に向かって出発した。雲海に浮かぶ月、影を落とす黒法師岳、ため息がでるほど素晴らしい。黒法師岳の登りは明瞭だがかなりの急登、直登に近い。笹を掴んでぐいぐい力まかせに登っていく感じ。丸盆岳方面からの道と合流すると頂上は近い。山頂の三角点は普通とは違って、+ではなく×印という珍しいタイプである。

黒法師岳の下りは、胸の高さ位まである激・笹ヤブ。踏み跡があるような、ないような、見えないときは心眼でとらえ（嘘です）、基本的には尾根沿いなので先を拾いながら下る。笹を泳ぐように進んでいくと、なんかもう自然にどっぷりと浸かった感じ。テント 1000 張くらいはできるヘリポート跡で休憩後、最後の登りをやり切って前黒法師岳に到着する。

前黒法師岳からは延々と下り坂が続く。ここまで来ると、長く辛かった道のりから解放される喜びと、もう終わってしまうことへの寂寥感とが入り混じった感じになる。前黒法師岳登山口に下りた先は、飛龍橋や夢の吊橋などの観光地、カップルやグループ、ファミリーで賑わっていた。デカイザックを背負い薄汚れた我々はさぞ目立ったことだろう。40 分ほど舗装路を歩いてやっと駐車場に到着した。歩いてすぐの「飛龍の宿」でアルカリぬるぬる系のいい湯に浸かった。東名道では 50km 渋滞で時間がかかったが、何とか日が変わる前に帰宅できた。

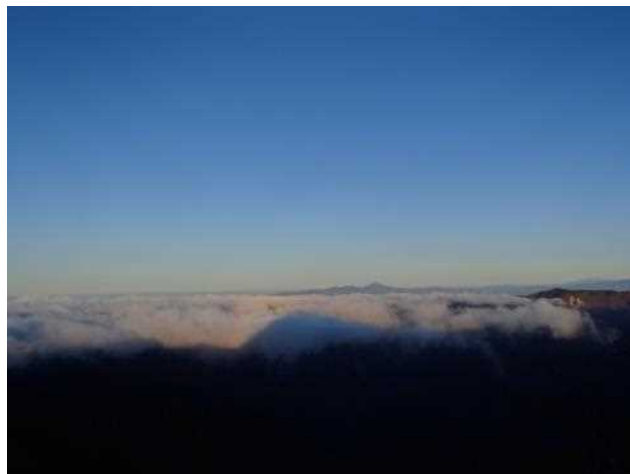
今回初めて深南部に足を踏み入れた。意外と人が多かったのはイメージと少し違ったが、最近人気なのだろうか。それでも人の手が入り過ぎた登山道とは異質の、奥深い山行を経験でき、天気にも恵まれた（2日目は大変でしたが）とても充実した3日間でした。吉川さん、どうもありがとうございました！



テントからの朝焼け最高！



雲海に浮かぶ月



雲海に黒法師岳の影



笹藪の激坂を登り詰めて黒法師岳到着！



三角点マニア羨望の✕印



激ヤブ！



笹藪に同化中〜、気分は笹団子





立ち枯れの樹木がオブジェのよう



ヘリポート跡 林道の末端



前黒法師岳



寸又峡に到着



夢の吊橋は今回お預け、お疲れ様でした！

南アルプス、深南部の想い

始めて深南部の山域に、足を踏み入れた時、10kmもの林道を歩いて、やっと登山口に辿り着いた事や、山奥の急斜面に茶畑を持ち、自給自足でひっそり、生活を営んでいる。時代錯誤を起こしそうな景色。又、現在の人里から、30分も車で奥に進むと、石垣が残り、傾いた祠や、お地蔵さんがある。そんな集落跡から歴史を感じる。これは、今までの山歩きとは違う感情を覚えた。

山に入ってみれば、倒木や、骨樹のオブジェの明るい笹原に、縦横無尽に踏み跡があり、獣達の樂園であるのだらうと思えた。又、少しの光を得て、綺麗な苔を、黒々したシラビソが蔽っている原生林は、原始の森と言ったように、人工物を見ない景色の展開に魅了された。

それから、崩壊して、自然に戻りつつある林道の多い事に驚く。今回通った山犬段から北を見ると山麓に線を引いたように林道が見える。何のための林道だろうと思うのは、自分だけではないと思う。深南部の山域は、天竜川～糸魚川大地溝帯のため、本来林道建設に向かず、造っても崩落破壊されやすいとか、過疎救済のため無謀なスーパー林道を次々と建設された。とか、何かで読んだ記憶がある。

ちば山の会に入って、Tさんと足しげく通った深南部の山々も、残すところわずかになってきた。寸又峡を起点に、房小山～前黒法師岳は、昨年行った、合地山～千頭山～池口岳の縦走の後、強く思うようになり、単独で行こうと思っていたところ、佐藤さんが興味を示し、今回計画が成り立った。二泊三日の縦走は思い出深い山行であった。ご一緒してくれた佐藤さんに感謝します。

二日目の房小山～黒法師岳は、唯一バリエーションで、笹の海を進む。ガスがでたら、難易度が上がるルートである。ここはどうしても、磁石で進みたいとの思いで、強風と、ガスの中、磁石に頼り、地形を把握しながら笹藪を漕いだ。思ったより笹丈が低い所が多く、楽に進めた。黒バラ平でテント設営後は、佐藤さん担当の夕食のウナギのかば焼きを美味しくいただき、達成感に満ち溢れた時を過ごした。明るい光に誘われ、テントから這い出てみると、月光に照らされた山のシルエットが浮び、素晴らしい光景に絶句！私には、映せないので佐藤さんをお願いして撮っていただいた。翌朝北の空にその月は残っていた。昨日の、強風とガス、小雨の辛い山歩きの後のご褒美であった。

今回、静かな山行と思っていたが、連休と紅葉が重なったせいか、思いのほか多くの登山者に出会った。深南部の山々も変わりつつあるのでしょうか？寸又峡温泉も、夢の吊り橋とかあって、観光客で賑わっていた。 吉川（記）

おわり